

わが校自慢

白岡高等学校

～活気に満ちた前進する学校～

- 一、本年度、埼玉県教育委員会より学習力育成研究事業を委嘱され、「わかる授業」「伸ばす授業」の研究を推進し、基礎学力のアップを図っています。
- 二、第一志望合格を目指した徹底した進路指導を展開し、大学進学率もめざましい伸びを示しています。また就職率は100%を達成し、フリーターゼロの指導をしています。
- 三、オーストラリアのヘレンズヴェイル高校と相互交流を行っています。また、来年6月までの予定でオーストラリアの留学生が本校で学んでいます。



9月9日ヘレンズヴェイル高校 生徒9名教員3名が来校し、本校生徒と交流した。
9月14日感動的なフィアウエルパーティの様様。

- 四、男子バスケットボール2年ぶり3度目のインターハイ出場、ウインターカップ全国大会出場をはじめ、陸上部の棒高跳びでの関東大会出場、女子バスケット、卓球、女子バレー、ソフトテニス、バドミントンと数多くの部活動が県大会に出場しています。

高校吹奏楽コンクールC部門優良賞、高校美術展優秀賞、高校放送コンテスト朗読部門県大会出場等文化部もがんばっています。

- 五、平成17年4月、埼玉県の高등학교で1校、読書活動推進校として文部科学省より表彰されました。本年度、埼玉県読書感想文コンクールで優秀賞を受賞しました。



男子バスケットボール部
9月24日、埼玉県予選で優勝し、全国高校選抜優勝大会(ウインターカップ)に初出場を決めた。

—白岡の古道をゆくvol.9—

石橋を架ける

ふるさと

白岡紀行



下野田から爪田ヶ谷へ抜ける道が笠原沼用水を渡る橋のたもとに、高さ1m弱の苔むした石塔が立っている。正面には、「石橋両所供養塔」と刻まれている。併せて彫られている記年銘から嘉永3年(1850)の造立であることがわかる。ペリーが浦賀へ来航し、我が国が太平の眠りから覚めるほんの少し前のことである。右側面には「南いわつきへ二里ノじをんじへ壱里十丁」、左側面には「北さってへ二里ノすぎとへ一里」とある。両村の有志は往来の便を考えて、石を買い橋をかけたのである。それまでは、板か丸太を組んだ粗末な橋であったとすれば、水の影響や荷車の荷重で頻りに架け替えを必要としたのであろう。これを、架け替えのいらぬ石橋に替えることは村人の長年の願いであったことは想像に難くない。裏面に「地面買居一坪」とあることから、石橋造営を顕彰し、永く存続することを祈って一坪の土地を買って供養塔を建てた様子がうかがわれる。

道しるべには、日光御成道を経て物資の集積地である岩槻や坂東札所12番として信仰の対象であった慈恩寺、また古利根川を渡り日光道中の宿場町として栄えた杉戸、幸手への道筋が刻まれていることから、この道が日光御成道から杉戸方面へ抜ける幹線路や地域の主要な生活道として重要な位置を占めたことが偲ばれる。

さらに裏面には「嘉永年度架設ノ用水石橋巾狭クシテ車馬ノ困難少カラス明治十八年四月大小石十九本を増加営繕ス」とあることから、石橋架設から35年後に石を買いたし拡幅したことが追刻されている。

